科目ナンバリング	U-LAS02 20025 LJ37				
授業科目名<英訳>	日本語の時間表現の諸相 Various Aspects of Temporal Expressions in Japanese	担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 教授　パリハワダナ　ルチラ		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

なぜ言語に時間という概念が必要だろうか。言外の現実を把握・描写する上で時間はいかなる役割を果たしているのか。刻一刻と変化する発話時を基準とした言語の時間表現体系はどのように出来ているのか。「間」や「季節」の捉え方は日本語の時間把握について何を示しているのか。この授業では様々な時間表現を手掛かりにしつつ、日本語における時間把握の仕組みについて考察する。

[到達目標]

取り上げる言語表現やその分析を手掛かりにしつつ、様々な言語現象に気付き、考察する関心・能力を養うことがこの授業の到達目標である。
履修者には自身の言語行動について注意深く内省しながら、ディスカッションなどに積極的に参加して頂きたい。

[授業計画と内容]

この授業では、日本語の時間表現を分析しながら、それらに反映される時間把握の仕組みについて考察する。出来事内部の時間的構造、複数の出来事間の時間的な関係、話し手の時間的な視点などについて考える。

各回の授業予定は以下の通りである。

第 1回　履修ガイダンス、総論：言語における時間
第 2回　日本語における時間表現ー序論、考察文 1
第 3回　時間に縛られない日本語表現、考察文 2
第 4回　時間と空間の交差――直示的な時間、ディスカッション 1
第 5回　時間を基準にした動詞の分類、考察文 3
第 6回　スルとシタの対立、様々なシタ形式、ディスカッション 2
第 7回　スルとシテイルの対立、ディスカッション 3
第 8回　内部局面構造と補助動詞表現、考察文 4
第 9回　従属節の時間とタクシス、ディスカッション 4
第10回　否定と時間、考察文 5
第11回　時間の副詞的表現、ディスカッション 5
第12回　小説における時間、考察文 6
第13回　日本語における「間」、考察文 7
第14回　総括：時間的視点と言語
第15回　フィードバック

なお、履修者に合わせて内容を若干変更する場合もある。

上記の通り、与えられた課題についてグループ・ディスカッションを行うので、履修者の積極的参加が求められる。

日本語の時間表現の諸相(2)へ続く↓↓↓

日本語の時間表現の諸相(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

評価は以下の通りに行う。

期末レポート　40%
クイズ、ディスカッション、考察文　50%
授業への参加度合い　10%

なお、5回以上の欠席者は評価の対象としない。

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

（参考書）
工藤真由美『アスペクト・テンス体系とテクスト』（ひつじ書房）ISBN:4938669595
寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』（くろしお出版）ISBN:4874240038
Binnick, R. I.『Time and The Verb』（Oxford University Press）ISBN:9780195062069

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献については、配布プリントの末尾に掲載しておく予定であり、授業中にも適宜紹介する。履修者には各回最低限一つの文献を調べてみる習慣を身に付けてほしい。更に、英語で書かれた文献の講読にもチャレンジしてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワー：木曜日14:45〜16:15
研究室：旧石油化学教室本館棟1階105号室

[主要授業科目（学部・学科名）]